



今回は、金沢大学法友会による出張講義の報告です。

◇ 法学類で学ぶ学生さん18名による法教育授業！

日 時： 2019年2月15日（金）

第1部 2年3組 8:45 ~ 10:35

第2部 2年1組 10:45 ~ 12:35

第3部 2年2組 13:15 ~ 15:05

※いずれのクラスも同一テーマで実施します。

会 場： 関高等学校 彩雲館（2階会議室） テーマ： 「その決め方、ホントにいいの？」

講 師： 金沢大学生18名 人間社会学域法学類公認サークル「法友会」所属

指 導： 福本知行氏 金沢大学准教授

<http://kanazawahouyu.wixsite.com/houyukai>

趣 旨： 地歴公民科の授業における法教育・主権者教育の一環として実施する。「なぜルールや法があるのか」を学び、身近な出来事を法やルールの観点から考え解決する力を身に付ける。

テーマ： 「その決め方、ホントにいいの？」

本授業は、普段何気なく利用してしまいがちな多数決を再考し、「本当に正しい決め方とは何なのか」「どのような条件を満たせばみんなの意見といえるのか」ということについて考えてもらうことを目的とします。



◇ 参加した生徒の感想

- 物事を決める時、ひとつの決め方にこだわらず、色々な角度から考えることが大切だと分かりました。自分の意見だけではなく、少数意見を尊重しつつ、かつ効率的な決め方が理想だけど、なかなかみんなの意見を取り入れるのは大変だと思いました。
- 班によって全然違う決め方をされていて、その時その時の状況にあった判断を、全員の中でしていかななくてはならないということが分かりました。今後、何かクラスや部活内で話し合いや投票をすることがあったら、今回の講座で学んだことを活かして決めていきたいと思いました。
- これまでは物事を決める時に、多数決やジャンケンをしていて、一部の少数派の人たちが不利になっていたが、ボルダルールや決戦多数決のような方法を用いることで、全員の第一希望が通るわけではないにしても、より公平に決めることができると分かった。大学生の方たちと自分の案について真剣に語り合うことで、自分の案だけではなく、相手の案も受け入れたうえで考える必要があると思った。社会に出て、多くの価値が異なった人との交流が増えていく中で、どのような状況で決めるのか、最適な決め方はないけど、考えていきたいと思った。
- 今回の講義で、今まで何かを決める時に、ジャンケンとか多数決とか、何も考えずに決めていたけれど、本当にその決め方でいいのか、深く考えることができよかったです。平等性だとか、もっと多くの人の意見を取り入れることのできる方法だとか、いろんな決め方があることを知りました。また、自力でその問題に対する解決策を見つけないという力を付けることもできたと思います。
- 今回の法学教室を通じて、複数の意見をひとつにするための方法が様々あって、それぞれに長所と短所があると思いました。実際に、修学旅行の行程について話し合った時は、多数決、決選投票付き多数決、ボルダルールのすべてを使っても結果が沖縄にしかならなかったことには驚きましたが…
- 意見をひとつに決める時に「多数決で決めよう」というのが決して「普通」ではないということがわかりました。別の決め方を自分でも考えてみようと思います。
- 普段、大学生と話をする機会がないので、今回の体験はとても貴重なものだと思います。集団で物事を決める時、クラスではよく多数決で決めていましたが、その決め方では、時には一部の人の意見が反映されないこともあり、他のボルダルールなどいろいろな決め方があることが分かりました。けれども、どの決め方にも長所と短所を併せ持っており、場合に応じて決め方を使い分けるといいなと思いました。
- 先日は貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。物事を決めるということについて、新しい発見や納得がありました。決め方にもそれぞれメリットとデメリットがあり、どの方法が良いとは言いきれないですね。全員が納得するような決め方はないと思いますが、自分や相手の少しの妥協で物事が円満におさまると実感できました。決め方というのは、一見、国語的というか、文系的な雰囲気ですが、数学の条件付確率みたいに、「～の時、〇〇の条件下で」に合った求め方が必要で、なんだか少し難しい部分もありました。今度なにか決める時、ボルダルールでよい面、悪い面を考慮しつつ実践していきたいと思います。
- 様々な選択肢の中から、みんなの意見をまとめあげることの難しさを特に感じました。多数決を使って決めるといっても、単純にやるだけではたまたま多くの人が希望したものが選ばれるだけであって、本当にみんなが望んでいることを実現するためには議論をすることが重要であると、改めて理解しました。たくさんの方がいるので、ひとつの意見にまとまることはほとんどないですが、より「民主主義」というものに近づけるためにも、様々な意見のメリット、デメリットを考察し、よりベターなものにしようとする努力を実際の社会でも、もっと取り入れるべきだと思いました。

ボルダルール： 選挙方法の一つ。投票者がすべての候補者に対して、よいと思う順に点数をつけ、総得点が高い候補者を当選とする。名称は、18世紀後半にこの方法を提唱したフランスの物理学者ジャン＝シャルル＝ド＝ボルダに由来。